

会員の広場



「ハム」の話

丸本 正人（東京）

「ハム (Ham)」と言っても素人（アマチュア）のことで、「下手な役者」として英和辞書に記載されることもあります。

ここでは、趣味の一つとしていますアマチュア無線の「素人」として今迄を振り返り、現在急拡大しつつあるIT・Networkとの関わ

りなどについて私見を述べさせて頂きます。私は職業人としては、主に技術管理に関する業務に従事して定年退職しました。ただ、趣味である無線通信については今でも興味を持ち続けており、都心に出かけた折には十代中頃から通った秋葉原の裏通りを覗いたりしております。

以前には、怪しげな裏通りに何故か特殊（軍用？）無線機などの更新・除却された機器が持ち込まれるところがあり、海外の短波放送の受信に相応しい高性能な部品を入手することが出来たこともあります。

それらを少しずつ買い集めて、短波の変換器を製作し、BBCや中立国スイス（北京で中継され聞き易い）の放送を聴くのが楽しみ

でした。

当初は主にニュースや音楽を聞いておりましたが、たまにそれと異なる信号（通信社等のモールス信号）が混信することがありました。この符号化された信号を半導体の論理回路により解読し、文字をパネルに表示するアイデアが「ハム」関連の雑誌に載るようになりました。

その後、デジタル通信に興味のある仲間が見つけてきた外国製のパーソナルコンピュータのOSにDOS-Versionの通信ソフトを組み込むなど工夫しながら電話（有線）回線で使用を試みました。

無線通信の仲間とは、何とか移動しながら使えるようにPacket変換器を改造し、試験

電波をTIARA（東京国際アマチュア無線協会）の基地局から発信し移動中の自動車にも緊急情報を伝えられるかなど試験しました。現在のような公衆無線回線のない時代に、出力は限られましたが、「ハム」は無線通信が許されていたことにより、内外の多様な人々と情報交換することが出来たことは大変貴重な経験であったと思っております。

昨今はPCを超える勢いで、スマートフォンやタブレット端末が普及し、多様なアプリケーションが開発されています。これらはさらに多様な国々に適合した高度な利用（言語・金融・医療）分野などで拡大し、社会システムの変換もグローバルに進んでいくのではないかと考えております。